

闇バイトを知って

長久手市立北中学校

二年 橋本 小春

テレビを見ていると少年の問題行動についての報道を多く見かける。強盗、暴行、万引きなど誰が見ても立派な犯罪を十代という同世代の少年少女が行っているという事実には、私は物騒だな、歳がそんなに変わらないのに、などという事件内容より少年少女が起こしたということにフォーカスを当てて考えていた。頭のどこかで完全に他人事、自分には関係ないだろうという気持ちでニュースに映る事件を眺めていたのだ。

そんな私が本格的に少年の問題行動について考えるようになったのはあるニュースがきっかけだった。「闇バイト」。闇、とついた字面だけでおぞましさを感じるニュース、その犯人たちは私と同じ中学生だった。彼らがバイトを始めたきっかけは「高額バイト」「簡単に数十万円稼げる」「書類を受け取るだけ」という甘い言葉を重ねた求人情報に騙されて

入った、というものや、友達や家族に誘われて、というものであった。個人情報を送るだけ、という明らかにうさんくさい話でも、説明を細かく解説しているのならば信用度が高いように感じてしまうのは理解できない話でもない。それを仲のいい友達や先輩から伝えられたら、より信じてしまいやすいだろう。もしも友達に高額バイトと称して誘われた時「そんなうまい話あるわけない。私はやらない。」ときっぱり言えるかどうか、私には自信が持てなかった。もしかしたらそのまま乗ってしまいかもしれない。そんな甘い考えで、本当に他人事と言えるだろうか。自分には関係ないと、言えるだろうか。そう考えると、たんに身近な問題として捉えるべきだと思うようになったのだ。

実際に調べてみると、SNSで「金欠」「お金がない」「仕事を探している」など一言呟いた際、犯行グループから連絡が来た事例があったそうだ。連絡を返すと「アルバイトをするために個人情報が必要だ。」とさらに細かい情報を求められ、それに答えると仕事

の詳細が伝えられる、初めて仕事内容を知り詐欺だと気づき断ろうとすると送ったその情報で脅されるというのだ。なんと悪質な、私は驚愕した。家に行く、家族や友人に危害を与えると言われて嫌だ嫌だと反抗することは簡単な話の訳がない。もし私がそう言われたら反抗することが怖く、何もできないまま巻き込まれてしまうだろう。何も言えないまま捨て駒として利用され、当然の如く見捨てられ一向に報酬ももらえないまま捕まる現実に、どこかこの世のものではないように感じた。これが同世代に起きているのかと思うとより恐ろしく思える。

それと同時に思ったのは闇バイトとSNSの関係性についてだ。事例の件もそうだがSNSでたった一言呟いたが始まりになってしまった。むしろ、SNSを利用せずに巻き込まれるケースの方が稀なのではと考えた。十代は社会人に比べ知識も少なく判断力も低い、そして一番誘惑に負けてしまう年代だと自認している。十代だと自分で稼ぐことができないのに欲しいものはどんどん増えていく。そ

の欲求を発散、共感してもらええるツールとしてSNSは確かにあっている。匿名性が高く、ごらくに富んでいて、簡単にアクセスできる、毒にも薬にもなるインターネットの善悪はすぐに分かるものでもない。SNSはすごく身近なものと同時に落とし穴も多いのだ。楽に高額稼げるバイトなどない。私は、甘い言葉に騙されなかったため、自分の身を守るために少しずつSNSとの付き合いを考えるようになった。

自分の意思をしつかりと持ち、ダメなものはダメ、と正しい知識を持ってしつかり判断し話せるか、自ら調べ自分事として捉えてみると前よりもはつきり言える気がする。これからの生活の中、自分に関してはもちろん、友達などが巻き込まれそうなきしつかりと「騙されないで」と言いたい。同じ十代の人達が少しずつ知識を集めそのような犯罪に反対し、少年の問題行動がすこしでも減ればと思う。